

寝床の工夫

大型犬はわずかでも床から浮いた場所(ソファ・ベッドなど)に寝かせるようにします(飼い主の腰の負担を少なくするため)。ただし落下する可能性も考え、高さを低くするか、周りをガードしましょう。また中型犬以上の大きさなら、床ずれがしやすいので床ずれ防止マットは不可欠です。



外部刺激

腰を支えれば自力で歩ける犬であれば、腰吊りハーネスを利用して少しでも散歩に連れ出しましょう。外のおいを嗅がせたり、日に当てるだけでよい刺激を与えることができます。無理な場合はカートなどに乗せ、散歩に連れ出すようにしましょう。



ペットたちも最期まで幸せに暮らしてほしいという願いは、飼い主さんと私たちの共通の願いです。



年をとったなあと思ったら Part 2

あけましておめでとうございます。

本年もままだ動物病院とスタッフ一同をよろしくお願いいたします。

今回は前回に続きまして、シニア犬・猫の日常的なケアについてお届けいたします。



シニア犬・猫の日常管理

生活リズム

規則正しい生活を心掛けましょう。そうすることによって日々の生活に安心感が得られるからです。

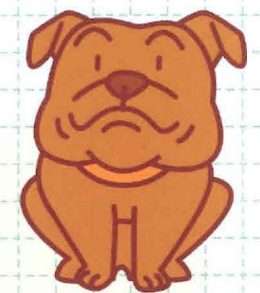
筋肉維持

筋肉を維持するためには運動の機会を与えることが大切です。危険回避能力が下がっていることに十分配慮し、後肢のふらつきなどに対して安全を確保するようにしましょう。

排泄

室内の定められた場所で排泄するようにしつけている場合、トイレの入り口を低くして中に入りやすいようにしてあげましょう。さらにトイレの数を増やすことも重要です。

また外での排泄をしつけてある場合、回数を2回ほど増やしてあげましょう(1日5~6回程)。



健康診断

病院で6ヶ月ごとに健康診断を受けるようにしましょう。シニア世代は免疫力の低下により、様子を見ていくうちにどんどん悪くなってしまうことが多いので、注意が必要です。